

和歌山県トレセンU-15活動報告

第27回京都招待中学サッカー大会

【報告者】 土井和則(和歌山県トレセンスタッフ)

1. 大会概要

- (1) 日時：2008年12月25日(木)～27日(土)
- (2) 会場：京都府立山城総合運動公園(太陽が丘)
京都府立府民スポーツ広場(みどりが丘)
京都市下鳥羽公園球技場
サンガタウン人工芝グラウンド
- (3) 主催：(社)京都府サッカー協会
- (4) 主管：(社)京都府サッカー協会3種委員会
- (5) 大会方法：予選リーグ
5チームずつ4ブロック(A、B、C、D)に分け、それぞれ各グループごとに総当たりリーグ戦を行う。
決勝トーナメント
予選リーグの結果より、それぞれの順位別の順位決定トーナメントを行う。
- (6) 試合時間：30分-5分-30分

2. 大会結果

参加チーム：京都府トレセン・奈良県中体連選抜・南河内トレセン・岡山県トレセン
埼玉東部トレセン・京都クラブ選抜・滋賀県トレセン・北河内トレセン
福井県トレセン・千葉市トレセン・京都山城選抜・奈良県トレセン
大阪府トレセン・三重県トレセン・京都サンガF.C.・京都市選抜
京都中丹選抜・兵庫県トレセン・**和歌山県トレセン**・石川県トレセン

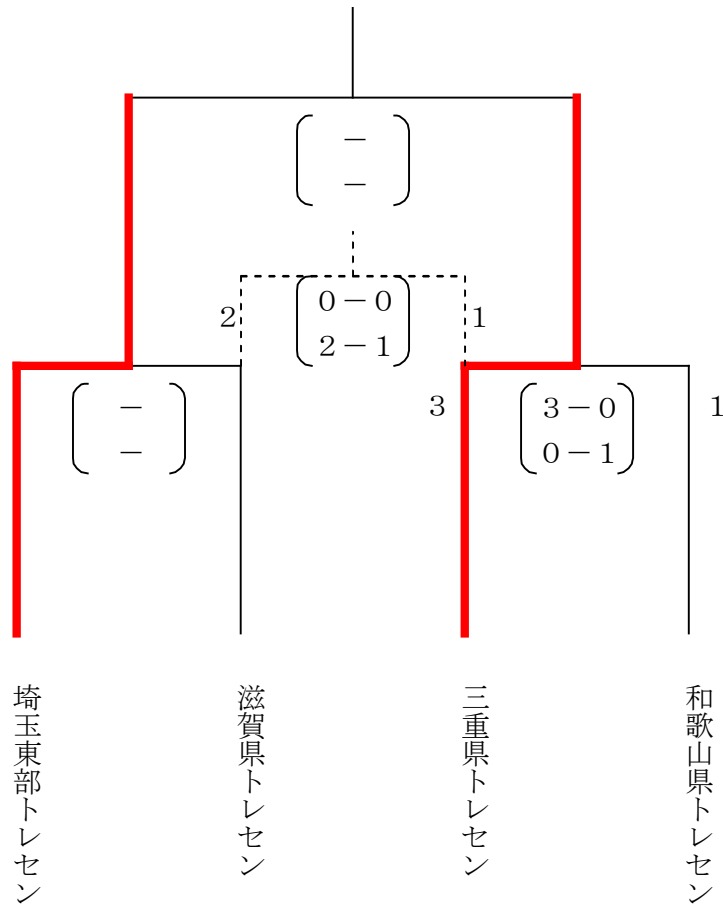
予選リーグ 12月25日(木) 26日(金)

グループD 会場：京都市下鳥羽公園球技場

	京都市	京都中丹	兵庫県	和歌山県	石川県	勝ち	分け	負け	勝点	得失	順位
京都市	***	○ 2-0	● 0-3	○ 2-0	● 1-4	2	0	2	6	-2	3
京都中丹	● 0-2	***	● 0-1	● 2-6	● 0-7	0	0	4	0	-24	5
兵庫県	○ 3-0	○ 1-0	***	○ 4-0	● 3-4	3	0	1	9	17	2
和歌山県	● 0-2	○ 6-2	● 0-4	***	● 2-3	1	0	3	3	-3	4
石川県	○ 4-1	○ 7-0	○ 4-3	○ 3-2	***	4	0	0	12	12	1

順位トーナメント 12月27日(土)

4位トーナメント 会場：京都府立府民スポーツ広場(みどりが丘)



第16位 和歌山県トレセン

3. 目 的

- ①あいさつ、礼儀、宿舎でのマナー
 - ②ゲーム前後のあいさつ
 - ③個人のプレー
 - ④チームとして
- 勝利+プレーパフォーマンス
和歌山県選抜としてのプライドを持つ!!

4. 成果と課題

4月、5月の練習会、夏の合同合宿から関西トレセン大会、この間 U-15 トレセンリーグを挟んで12月の選考会を経て今回の大会に参加をした。

12月の選考会ではG Kも含め51名の選手に招集をかけたが、実際集まったのは21名と半分以下であった。原因としては、今年度から公立高校の受験方式が変更となったため受験に対する不安から辞退者が増えたものと考えられる。

今回参加した選手は関西トレセン大会に参加した選手もいるが、久しぶりに参加した選手もいるので、集団としては和歌山県 U-15 の代表として全員で活動の円滑化に努めることを目指し、個人としては公式戦から遠ざかっている選手も多いことからプレーパフォーマンスを上げることを目的に行った。攻守の個人戦術の理解度が高くなく、オン、オフ・ザ・ピッチとも良い習慣が身につけていない。特にオフ・ザ・ピッチではチームの荷物を管理できなかったり、個人の用具を忘れ物したりなど、まだまだ未熟な部分が多かった。

ゲームでは、自分のプレーは考えながらプレーしている選手は多くいたが、試合の流れや状況に応じて考えてプレーしているかという課題があった。また、今後選抜チームとして戦う上で一番大事な部分(今までも大事ではあったが)のコミュニケーションが十分とれていなかった。そのためチームとして・仲間として助け合うことが少なく、相手の攻撃に対し、自分のゾーンに入ってきた相手のマークはするが、ゾーンから出て行った相手に対して、味方に声をかけて受け渡しをしない。攻守において味方の視野から消えている選手やスペースがあることを、見えている選手が教えて上げない。そのため守備では、ディフェンスの間、ハーフとディフェンスの間にポジションをとられるとマークが曖昧になり、そこから崩されることが多く見られた。クロスに対する守備にしても相手を簡単にフリーにしまい、失点してしまう場面も見られた。

1月以降は、公立高校受験予定の選手は活動を一旦休止し、3月に私立高校進学者及び高校1年生早生まれで練習会、姫路フェスティバルに参加。その後4月からは国体選抜候補選手として活動を行う予定である。受験によるブランクと、高校1年生になり所属チームでの出場機会が少なく公式戦から遠ざかる選手に対しての継続的な活動と試合経験を確保する必要がある。

今後、和歌山県代表選手として真剣勝負を闘うことで、技術・戦術の向上が見られると思うが、まずイージーミスをなくし、1試合を通じてハイテンション・ハイプレッシャーな守備ができることをベースとしてほしい。

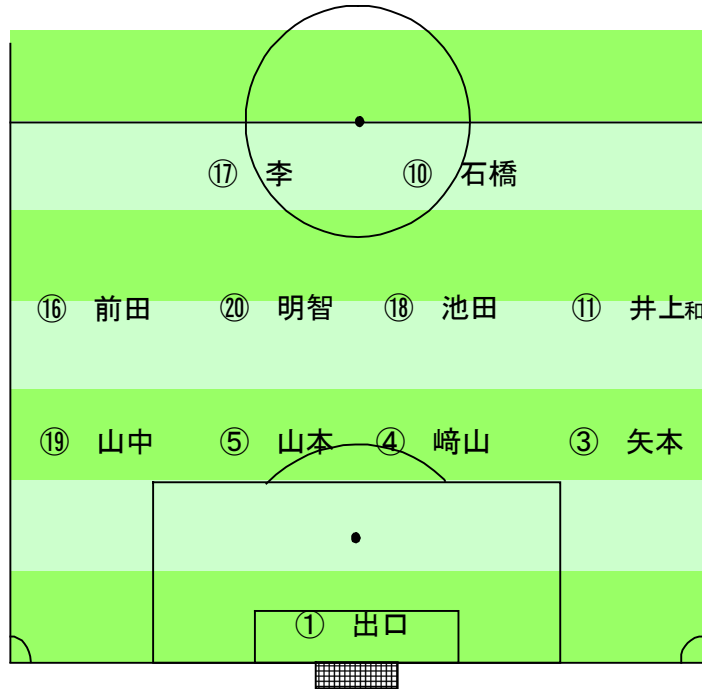
それぞれの試合の中での成果と課題は以下の通りである。

和歌山県トレセン 参加選手			
背番号	氏 名	ポジション	所属チーム名
1	出 口 拓 磨	G K	F Cエクセルクウォーレ伊都
2	西 尾 純 平	D F	F C和歌山V I V O
3	矢 本 大 洋	D F	近畿大学附属新宮中学校
4	崎 山 貴 裕	D F	和歌山大学附属中学校
5	山 本 直 輝	D F	岩出市立 岩出中学校
6	南 川 海	M F	F C和歌山V I V O
7	後 藤 樹 希	D F	和歌山市立 東中学校
8	大 野 直 人	M F	田辺市立 高雄中学校
9	井 上 椋 太	F W	ミラグロソ海南S C
1 0	石 橋 昌 明	F W	和歌山市立 紀之川中学校
1 1	井 上 和 己	F W	F C. G O L A Z O
1 2	平 井 優 武	G K	F C和歌山V I V O
1 3	中 井 悠 太	F W	白浜町立 富田中学校
1 4	石 部 稜 亮	F W	那智勝浦町立 那智中学校
1 5	森 山 和 磨	D F	F C和歌山V I V O
1 6	前 田 圭 介	M F	橋本市立 高野口中学校
1 7	李 寅 武	F W	F C和歌山V I V O
1 8	池 田 将 人	M F	田辺市立 明洋中学校
1 9	山 中 佑 介	D F	F C. G O L A Z O
2 0	明 智 浩 之	M F	新宮市立 光洋中学校

12月25日(木) 予選リーグ① 会場：京都市下鳥羽公園球技場(人工芝)
 12:18 kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン 対 兵庫県トレセン

0 $\left[\begin{array}{cc} 0 & - & 1 \\ 0 & - & 3 \end{array} \right]$ 4



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
29分	⑱ 池田	⑥ 南川	
29分	⑯ 前田	⑦ 後藤	
30分	⑳ 明智	⑧ 大野	
30分	① 出口	⑫ 平井	
30分	⑰ 李	⑨ 井上椋	
42分	⑩ 石橋	⑭ 石部	FW⑪井上和、RMF⑭石部
44分	③ 矢本	② 西尾	
44分	⑲ 山中	⑮ 森山	
50分	⑪ 井上和	⑬ 中井	

〈得点〉

時間	チーム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
2分	兵庫	⑲	(右)⑳～→(中央)⑲右足S
42分	兵庫	⑭	ゴール前×⑭右足S
51分	兵庫	⑲	カウンター(中央)⑲～右足S
55分	兵庫	⑰	(右)CK⑧ ↑(中央)⑰HS

【成果】

- セカンドディフェンダーの正しいポジションが取れているときは、ファーストディフェンダーが連続して相手にプレッシャーをかけ続けボールを奪う（インターセプトも含めて）ことができた。
- 逆サイドでアクションを起こすことによってディフェンスに変化を起こさせ、ボールを引きだすことによって効果的なサイドチェンジができた。
- FWが空けたスペースにボランチが飛び出し、厚みのある攻撃ができた。

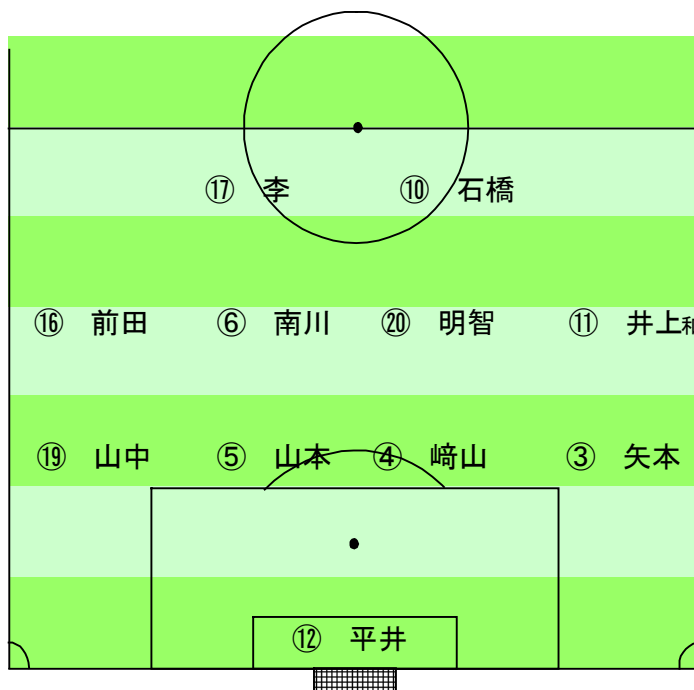
【課題】

- 1対1での最後まで粘り強い対応。
- 自陣ペナルティエリア内では粘り強い守備から相手の自由を奪う。
- ボランチのポジションが下がりすぎるため、センターDFとボランチのブロックが形成できず、飛び出してきた相手ハーフにバイタルエリアを簡単に使われシュートを打たれてしまう。
- 相手がボールを下げたらマークする相手を見ながらラインを押し上げたり、3ラインの距離を保ちながらラインコントロールをする。
- 前線からの積極的な守備がないために、中盤でのブロック形成が遅れボールを奪えない。
- 相手ボール保持者の状況を観てサンドなのかカバーなのかの判断。
- ボールを奪いにいく中でボールサイドでフリーマンをつくらない。数的不利にしない。
- 中盤あるいは最終ラインでボールを奪った際準備が遅く、トップやMFの動き出しの速さから、空いたスペースへ中盤が絡んでサイドバックが攻め上がることができずピッチを広く使うことができない。
- パスの出し手はもっと遠くを観ることと、受け手は遠くでアクションを起こす。
- パサーが受け手の足元しか見ていないことが多い。スペースを観る。
- 積極的にボールに関わりパスしたら動いていくことで前方に選択肢を増やしていく。
- トライアングルの意識…パサーは1点ではなく広く観る。サポートのアングルをとり顔を出し、面で受ける。
- 攻撃と守備の両面をダイナミックに素早く移行できる走力の向上(グラウンドを素早くアップダウンできる動きの連続性を高める)。特にサイドの選手は縦へのアップダウンの運動量を増やす。
- サイドハーフからボランチに横パスが入った時やサイドハーフが中に持ち込んだ時にサイドバックの前へのサポートが遅れる。
- フリーであればしっかり狙ったところへ跳ばせればいいが、相手・味方の状況判断なしに自陣でのリスクを回避して縦へ蹴ってしまい効果的な攻撃につながらない、またはボールを奪われる場面が見られた。ボランチが中で顔を出してボールを引きだし、逆サイドの選手がアクションを起こすことによってサイドチェンジを行い相手守備陣を拡散させ攻撃しやすくするプレーの原則が生かされていない。
- アタッキングサードでのしかけでは、まだまだ技術の精度が低く、またしかけながら色々な判断ができる選手が少ない。
- FWのオフのかけひきがなく、スペースに出て行かずに足元を要求する場面が多い。自分とボールとの関係で動くことはできても、味方がどのスペースを狙っているかを観ていないため、動きが重なり上手くお互いにスペースをつくり、使うことができていない。
- 自チームの攻撃時に最終ラインは守備の対応ができる体勢、バランスをとる。

12月25日(木) 予選リーグ② 会場：京都市下鳥羽公園球技場(人工芝)
 15:07kick off(30分-5分-30分)

和歌山県トレセン 対 石川県トレセン

2 $\begin{bmatrix} 0 & - & 2 \\ 2 & - & 1 \end{bmatrix}$ 3



〈交代〉

時 間	OUT	IN	備 考
30分	③ 矢本	⑦ 後藤	
30分	⑳ 明智	⑱ 池田	
30分	⑩ 石橋	⑨ 井上椋	
35分	⑯ 前田	⑬ 中井	
46分	⑲ 山中	② 西尾	
50分	⑫ 平井	① 出口	
51分	④ 崎山	⑮ 森山	CDF②西尾、LDF⑮森山
51分	⑪ 井上和	⑧ 大野	
51分	⑰ 李	⑭ 石部	

〈得点〉

時 間	チーム	得点者	得点経過(～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
4分	石川	⑭	DFミス(左)⑭～右足S
21分	石川	⑤	エリア内(左)⑳→⑤右足S
34分	和歌山	⑪ 井上和	PK⑪右足S
37分	和歌山	⑪ 井上和	(右)⑦→(右)⑪～右足S
41分	石川	③	(中央)～③右足S

【成果】

- ボランチにボールが入った時にサイドバックがボールを追い越す大きな動きから積極的な攻撃。

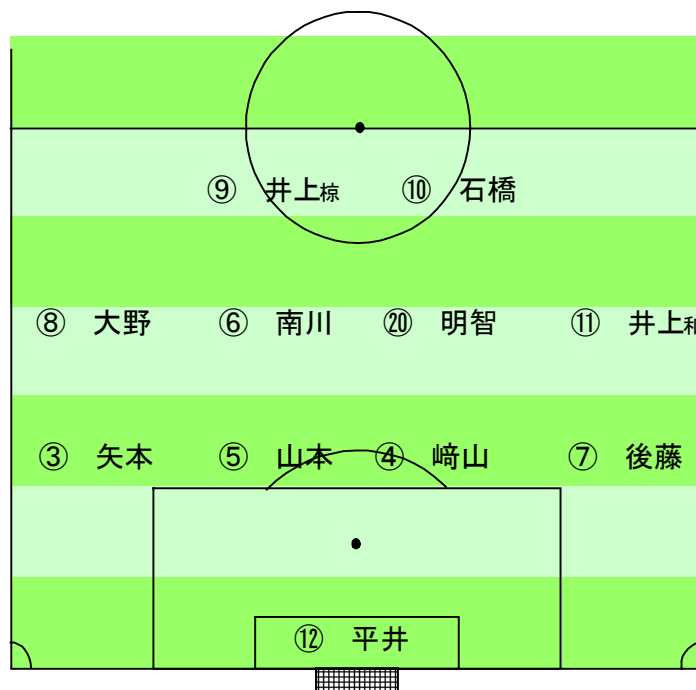
【課題】

- ボールに近い選手がアプローチをかけ、もっと相手の近くで粘り強く対応する。
- ボールばかり見てしまい、相手、味方、スペースを視野に入れたポジショニングがとれていない。
- サポートのアンクルはとれてても距離が近すぎる。
- 常に考えながらのプレー(頭を休めない)。オフでの関わりを持ってプレーを止めない。
- 状況に応じたファーストタッチができず、また足元に止めてしまうために相手、味方の状況を観てプレーのやり直しを行うことができない。
- ボールを受ける前に観ておくことがなく、相手に縦のパスコースを消されているにもかかわらず縦にパスを出しボールを奪われてしまう。横パスを使いサイドを変えるなどプレーのやり直しを行う。
- 状況に応じて組織的に関わることはまだ精度が低い。シンプルにタイミング良く数的優位をつくることができず、相手を突破することができない場面が多い。オンザボールの選手もオンザボールだけになってしまうことや、オフザボールの選手がオンザボールの選手を見ているだけで関わっていないときがあり、状況に応じて有効に攻撃を行えるようにすることが必要。
- パスの出し手はもっと遠くを観ることと、受け手は遠くでアクションを起こす。
- 声でボールを要求することはできているが、アクション(動き出す)を起こすことでボールを引き出せない。特に逆サイドにボールがある時の遠くの選手。
- 基本技術(プレッシャーの中でのシンプルなプレー)と基本の習慣化(パス&ムーブ、ボールに寄る、ルックアラウンド)を高める。
- 意図の明確でないロングボールが多い。自陣でのリスクを回避してロングフォワードパスを多用するよりは、積極的にボールをつなぐことが必要。
- サイドの選手は幅をとる、中央の選手がギャップを狙う、ボールを持った選手はやみくもにドリブルするのではなく、パス or ドリブルの選択肢を持ちながらプレーする。
- ビルドアップで幅はとれるようになってきたが、バイタルエリアに縦パスを入れた後に複数の選手が同じスペースを狙ってしまい、攻撃が狭くなってしまう。くさびのパスからタイミングよく中央突破することと、相手が中央に寄ってきたところをサイドに振ってクロスを狙うなど、相手陣内でもピッチを広く使い攻撃を行っていききたい。
- FWがターゲットになりボールを引きだしたり、くさびのボールをじっくり収めてキープできないとチームとしての攻撃のリズムが作れない。
- クロス(低い速いボール)が低く、FWが空けたスペースに中盤が飛び込んでくるなどゴール前に枚数をかけた攻撃がない。

12月26日(金) 予選リーグ③ 会場：京都市下鳥羽公園球技場(人工芝)
11:21 kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン 対 京都中丹トレセン

6 $\left[\begin{array}{ccc} 3 & - & 2 \\ 3 & - & 0 \end{array} \right]$ 2



〈交代〉

時 間	OUT	IN	備 考
30分	⑳ 明智	⑱ 池田	
30分	⑫ 平井	① 出口	
51分	③ 矢本	⑲ 山中	
51分	⑨ 井上椋	⑰ 李	
51分	⑦ 後藤	② 西尾	
51分	⑧ 大野	⑮ 森山	
51分	⑩ 石橋	⑭ 石部	

〈得点〉

時 間	チーム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
6分	京都中丹	⑤	FK(左)⑤右足↑
9分	和歌山	⑪ 井上和	(中央)⑧→(左)③→(右)⑪右足S
11分	和歌山	⑦ 後藤	(中央)⑩→(右)⑦右足S
14分	和歌山	⑪ 井上和	(右)⑦→(中央)⑪右足S
26分	京都中丹	⑦	FK(左)⑱↑(中央)⑦右足S
48分	和歌山	⑪ 井上和	エリア内(右)⑦→(右)⑩↑(中央)⑪HS
55分	和歌山	⑭ 石部	PK⑭右足S
57分	和歌山	⑰ 李	(右)⑭～→(中央)⑰右足S

【成果】

- サイドバックから相手DFの裏のスペースをシンプルに狙う。
- ボールを動かしながら縦に「くさび」を入れ3人目の選手がアクションを起こし、そこに別の選手が絡んでくる連動性のあるプレー。
- 縦へのくさびを入れながら相手守備陣が集結集中せざるを得ない状況を創り出し、サイドのオープンスペースにサイドバックのタイミングのよいオーバーラップからサイドに起点を作り幅・厚みのある攻撃。
- ボランチにボールが入った時サイドハーフのDFライン背後のスペースを狙うためのアクション。
- FWのミドルサードからのしかけで、しかけながら色々な判断することで突破する。
- ゴール前でのOffの選手のイメージの共有。
- ゴール前に枚数をかけ、その局面でのプレーヤーの複数の関わりがあり選択肢がある攻撃。

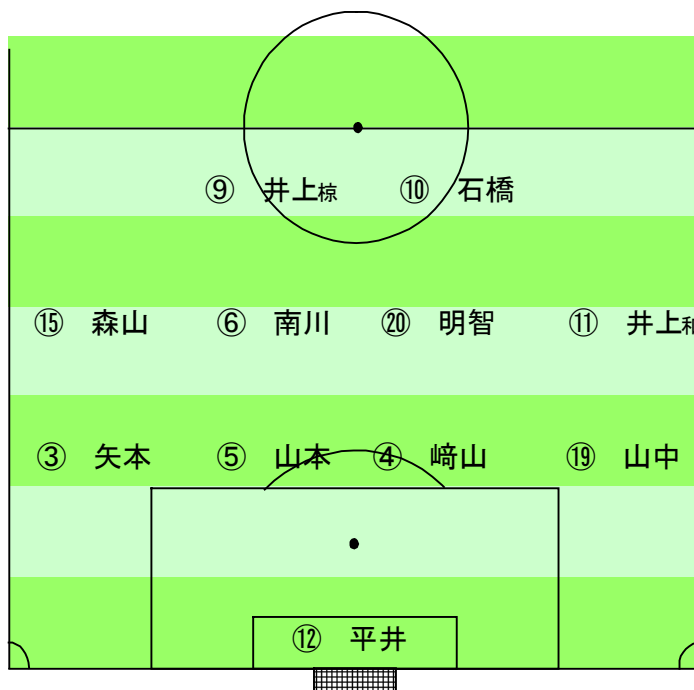
【課題】

- 不用意なファウルが多すぎる。
- 1対1の対応で、身体を寄せられない。また身体の体軸を相手に当てていけない。
- 落下地点を的確に判断（空間認知）できずボールをかぶってしまう。またポイントが合わず強く正確なヘディングができていない。
- DFラインコントロール。パスが出てくるタイミングの時に、守備の対応ができる体勢ができていない。
- 相手がディフェンスライン中央の裏にロングボールを入れてきた時、センターバックの1人が前からしっかりと競りながら、もう1人はカバーのポジションをとる。
- セットプレーの守備（直接のシュート、2次・3次的攻撃、次の相手の攻撃に備える）
- 中盤でのプレスが甘く、最終ラインが引いてしまい簡単にミドルシュートを打たれる。
- サイドバックのポジションバランスが悪く、厚みがとれない。
- ファーストディフェンダーを明確にしてボール保持者にプレッシャーをかけ、他の選手は危ないコースを消す意識を持ちながら、通されても最終ラインでインターセプトや挟み込んで奪う。
- 前線からボールを奪う意識はあったが、相手ボランチへのパスや相手のくさびのボールに対しての守備意識が薄かった。
- 前線からのプレスをしっかりかけることで、相手にロングボールを簡単に蹴らさない。
- 少ないタッチ数でくさびを当ててサイドに展開するなどシンプルな攻撃。
- サイドハーフ、バックが相手陣内に深くしかけた時のボランチのアンクルのあるサポートから、相手の状況や味方の状況を観る。
- トップは前線で確実に攻撃の起点となれるように。

1 2月26日(金) 予選リーグ④ 会場：京都市下鳥羽公園球技場(人工芝)
 1 3 : 5 4 kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン 対 京都市トレセン

0 $\left[\begin{array}{ccc} 0 & - & 0 \\ 0 & - & 2 \end{array} \right]$ 2



〈交代〉

時 間	OUT	IN	備 考
3 6分	⑮ 森山	⑧ 大野	
4 0分	⑳ 明智	⑱ 池田	
5 0分	⑩ 石橋	⑭ 石部	
5 4分	⑲ 山中	⑦ 後藤	
5 4分	⑨ 井上椋	⑰ 李	
5 4分	③ 矢本	② 西尾	
5 4分	⑫ 平井	① 出口	

〈得点〉

時 間	チ-ム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
3 9分	京都市	⑱	(中央)⑮→(左)⑱～右足S
4 9分	京都市	⑩	(左)⑩↑(右)⑩右足S

【成果】

- サイドバックが前の選手を追い越す動きであがり、ボランチが前線にタイミングよく攻撃に参加することで逆サイドに数的優位を創り出しサイドチェンジによってシンプルな崩しができた。
- ゴール前の状況を観ながらのクロスの精度。

【課題】

- ボールに近い選手がアプローチをかけ、もっと相手の近くで粘り強く対応する。
- インターセプトを狙うポジショニングと、相手のボールを奪うために近づく守備が徹底できない。
- 連続して相手にプレッシャーをかけ続けボールを奪う（インターセプトも含めて）
- ゴール前では相手に身体の体軸を当てて自由を奪う。
- GKとセンターDFのリーダーシップ。
- ゲームの立ち上がりは、ピッチを狭く使うのではなく広く大きく使う。
- ボールを奪った後、DFがドリブルスタートして自陣でボールを奪われるとゴールに結びついてしまう。ビルドアップ時にはワンタッチのタイミングを意識して突破を狙う。
- ボール保持者の状況を観て、優先順位を理解した上で動き出すタイミングを計ることが課題。
- ビルドアップ時に優先順位を生かしたトップの動き出しやサイドハーフのアクションからボールに対して顔を出すボールを引きだす効果的なサポートが少ない。
- サイドチェンジの意識…前方が蓋をされたときに中に預けてサイドを変えるなど、やり直すプレーがあまり見られなかった。
- FWが良いポジションをとっていてもDFとのかけひきがなくボールを引き出せない。
- ボールを失う場面では、決まってドリブル突破に入ったらドリブル突破のみで、壁パス突破ドリブル突破の選択肢がない。シンプルにパス&ムーブで数的優位を作り出す。
- 自チームの攻撃時に最終ラインは守備の対応ができる体勢、マークの確認、バランスをとる。

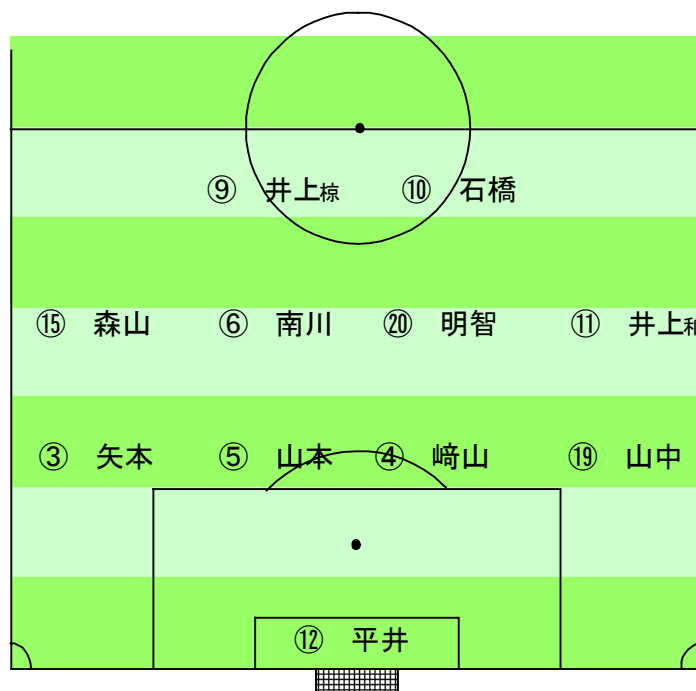
1 2月27日(土) 4位トーナメント1回戦 会場：京都府立府民スポーツ広場

(みどりが丘) (クレー)

10:50 kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン 対 三重県トレセン

1 $\left[\begin{array}{cc} 0 & - & 3 \\ 1 & - & 0 \end{array} \right]$ 3



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
30分	⑱ 山中	⑦ 後藤	
30分	⑳ 明智	⑨ 井上椋	CMF ⑩石橋、FW ⑨井上椋
30分	⑮ 森山	⑧ 大野	41分 RMF ⑰李、FW ⑪井上和
55分	⑪ 井上和	⑬ 中井	
55分	⑩ 石橋	⑱ 池田	

〈得点〉

時間	チーム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
6分	三重	⑯	(左)⑮→(中央)⑯右足S
14分	三重	⑨	(中央)⑪↑(右)⑯→(左)⑨左足S
20分	三重	OG	(左)FK ④↑⑪H OG
42分	和歌山	⑦	(右)⑦～右足S

【成果】

- 前線からの積極的な守備から中盤でのブロック形成を行い、中盤の高い位置でボールを奪うことができた。
- オフザボールの選手はシンプルにタイミング良くDFの背後に走り込み、オンザボールの選手は精度の高いボールを供給することでゴールチャンスを作り出す。
- サイドを起点にMFのFWを追い越す動きから、逆サイドのサイドバックが駆け上がったの攻撃でしかけるプレー。
- パスコースを消されて出せない時の判断とコントロールからやり直しのプレー。

【課題】

- ボールの状況によって奪いに行くかラインを下げる、または時間をかけるかという判断。
- センターDFがボールに食いついてしまい、カバーのポジショニングが遅れる。
- 中盤での守備が甘いため、相手のパスの精度がそれほど高くなくても簡単にバイタルエリアへ通され、少ないタッチ数でボールを回されるとボールウォッチャーになり、数的優位にもかかわらず突破されてしまう。
- ボールを奪った直後に激しいプレッシャーを受けていないにも関わらず、ミスパスをして簡単にボールを失う場面が多かった。
- 立ち上がりに意図の明確でないロングボール蹴ってボールを失わない。
- GK、DFのビルドアップの際、クリアにしないでつなげるところはつなぐ能力の向上。プレッシャーが厳しい中でも、ディフェンディングサードから落ち着いてビルドアップできるためのプレーの質の向上。
- ビルドアップしながら相手の出方をじっくり観る。
- GKを使って数的優位を保ちながらビルドアップしたり、周りの選手がスペースをつくりながらドリブル突破させたり、ロングフォワードパスでセカンドボールを拾うなどし、中盤でフリーな状態でのボール保持をチームで意図的に作り出すこと。
- DFラインではボールを左右に散らせるが、いったんボールが前に入ると攻撃が片サイドに偏り、逆サイドにフリーな味方がいて展開できず、効果的な攻撃につなげられなかった。ワイドな攻撃をすることにより、相手守備陣を拡散させ攻撃しやすくするプレーの原則が生かされていない。
- パスの出し手がしっかりと状況を把握し、的確な判断を伴った意図のあるパスを出すこと。
- 受け手がパスを出されてから受動的に動き出すのではなく、自ら能動的にアクションを起こしパスを受ける。
- ボールを簡単に下げない。局面でも踏ん張って前方を打開する意識。
- 前線への縦パスに頼る攻撃が多くなったり、逆に横パス・バックパスばかりの攻撃になってしまうこともあった。
- くさびのパスからタイミングよく中央突破することと、相手が中央に寄ってきたところをサイドに振ってクロスを狙うなど、相手陣内でもピッチを広く使い攻撃を行っていきたい。
- ボランチとFWとの距離があるときはサポートが遅れることがあった。

1 2月27日(土) 15位決定戦

会場：京都府立府民スポーツ広場

(みどりが丘) クレー

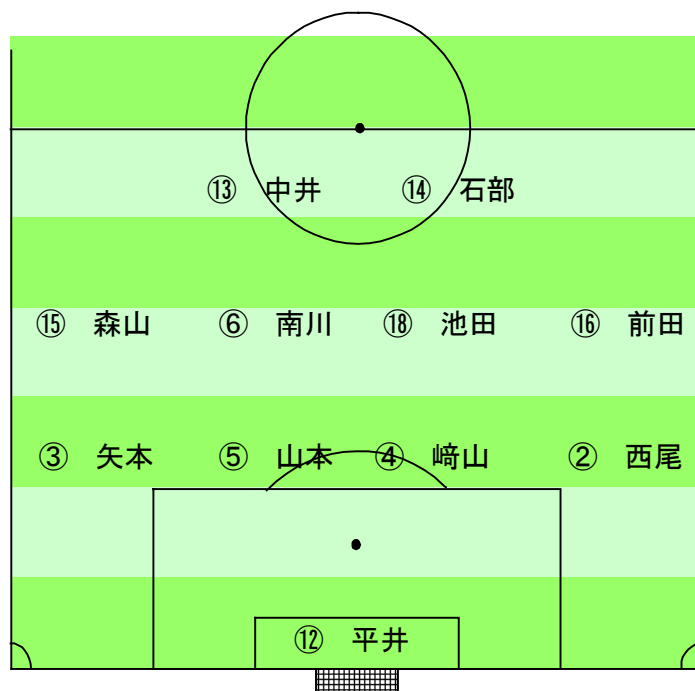
13:20kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン

対

滋賀県トレセン

1 $\left[\begin{array}{cc} 0 & - & 0 \\ 1 & - & 2 \end{array} \right]$ 2



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
31分	⑩ 前田	⑦ 後藤	
43分	② 西尾	⑨ 井上椋	RDF⑦後藤、FW⑨井上椋
43分	⑮ 森山	⑪ 井上和	RMF
43分	⑬ 中井	⑰ 李	LMF
43分	⑭ 石部	⑩ 石橋	
48分	⑱ 池田	⑳ 明智	54分FW⑪井上和、RMF⑨井上椋

〈得点〉

時間	チーム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
41分	滋賀	⑳	(右)⑳↑(中央)㉑右足S
56分	滋賀	⑳	(中央)㉑→(左)⑳～右足S
58分	和歌山	⑪ 井上和	(中央)⑳→(右)⑪右足S

【成果】

- FWがターゲットになり縦へのくさび、前方に起点を創り出す意図的なプレー
- MFからDF背後への精度の高いラストパスの供給。
- アングルのある良いサポートから縦、横へのアングル、方向を変えたパスで相手中盤を崩す。

【課題】

- 1対1で勝負された時に粘り強い対応ができずに突破される場面が見られた。最後まで責任を持って追い込む。
- 守備のポジショニングが悪く、マンマークでついているときはいいが、マークを放してみているときにボールウォッチャーになり相手をフリーにしてしまう。
- ワンプレーで終わらず、ボールを奪われたらすぐに奪い返す意識が低い。守備の連続性がない。
- プレーのやり直し。そのための選択肢を増やす。
- DFが前を向いてボールを保持した瞬間にサイドとトップの選手はアクションを起こし、幅と厚みを持った選択肢の多い攻撃を起こす。
- トライアングルの意識。パサーは1点ではなく広く観る。サポートのアングルをとり、ボールに対して顔を出し面で受ける。
- チャンスを逃さないで得点につなげるべくゴールに対してアングルがありパワーを持って入っていくことやシュートの正確性を上げる必要がある。
- FWはくさびのボールをしっかり収めて攻撃のリズムを作る。